

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

桃山学院教育大学

令和5年4月

目次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	7
III 総合評価	9
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	9
V 現況基礎データ一覧	10

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科
- (2) 所在地：大阪府堺市南区槇塚台4丁5番1号
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数：教職課程履修817名／学部（大学）全体847名

教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）40名／学部（大学）全体43名

2 特色

本学は、教員養成を主たる目的とする人間教育学部人間教育学科のみの単科大学であり、幼児教育課程、小学校教育課程、健康・スポーツ教育課程の3つの課程を設置している。

学部・学科名が示すとおり、本学の教育の根幹は、子どもの「生き抜く力」を育める教員をめざし、自分の人生を切り拓く力を身につけ、人生を主体的に生き、人間的な成長を果たす「人間教育」にある。その人間教育を土台に「誰一人取り残すことのない教育」の実践を掲げ、学生の成長を最優先にした学修者中心主義に基づく教育を行っている。

そして、「自己実現」「『我々の世界』と『我的世界』を生きる力」「習得・活用・探究」の3つの人間的な教育プロセスを通して人間的な成長・発達を実現し、教える知識やスキルだけではなくそれを使う者自身の豊かな人間力を磨くことを教育の目標としている。

また、「現場主義」を掲げ、実践スキルを修得するため、教育現場での体験実習を重視している。入学間もない1年次より教育現場を見学する等、現場体験との反復を繰り返し、主体性と実践力を着実に身につけ、仲間や教員との積極的な「振り返り」と「対話」により、人間としても大きく成長することが期待される。現場体験4年間のステップは、1年次は学校を知り教師を知る「意欲」の時、2年次は子どもから学び自らの課題を知る「経験」の時、3年次はあきらめない心と実践力を身につける「本気」の時、4年次は子ども理解に基づく指導力・自己表現力を実践する「本番」の時としている。そして、現場を体験し、授業で振り返り、教員からアドバイスを受ける、という着実に力を身につける学びのサイクルを確立し、これを幾度も繰り返す中で、教育者になる意識と、そのために求められる能力の習熟度を深めていく。

各課程の特色は以下のとおりである。

◎ 幼児教育課程

保育士資格や幼稚園教諭免許状の取得を通じて、子どもの発達特性について理解し、子どもが健康で安定した情緒のもとで生活できる環境で、乳幼児期にふさわしい体験をもつことができるように保育・指導する技術を学ぶ。保育士養成課程を置くことで、幼児に対する教育だけでなく、子育て支援や社会的養護等、福祉の観点からも子どもを取り巻く環境について学ぶことが特色の一つである。

◎ 小学校教育課程

小学校教諭免許状と幼稚園教諭免許状の取得を通じて、初等教育における教科科目等の指導法

と、学級運営やカウンセリング等の手法を学ぶ。また、中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）の取得を通じて、小学校教諭に必要な指導力を磨きながら、子どもの読解力を高め、小中高一貫した国語教育を担う能力を、中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を通じて、小学校教諭に必要な必要な指導力と英語指導の能力を高め、学校現場が求める英語に精通した教員をめざす。そして、特別支援教育課程において、各障害の特性や教育方法についての理論と技術を学ぶことで、総合的な指導力を備えた教員となることをめざす。

◎ 健康・スポーツ教育課程

中学校・高等学校の教育職員免許状（保健体育）や全校種の養護教諭免許状を取得できることが特色の一つではあるが、全体像としてはスポーツ・教育・社会貢献をバランスよく融合し、学生それぞれの志向に合わせてスポーツの専門性を活かすことにある。1年次で健康・スポーツの基礎に触れ、2年次では運動実践指導能力を高めるとともに、積極的な社会貢献・国際貢献等のフィールドで活動する。産学共同での研究や開発、教育現場での実践は、対人コミュニケーション力やマネジメント力も同時に必要となる。これらの学びを通じ、健康・スポーツのスペシャリストをめざす。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状説明〕

- ・ 本学の教職課程教育（教育課程）の目的・目標は、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに「履修のてびき」（資料 1-1-1）及び「大学 Web サイト」（資料 1-1-[2](#)・[3](#)）で学生に周知している。
- ・ 毎年度末に教職員対象の「教育方針説明会」（資料 1-1-4）を開催し、育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が本学の教職課程（教育課程）の目的・目標を共有している。また、毎月開催する教務委員会及び教職課程委員会、各課程会議、教授会において教職課程教育（教育課程）を計画的に実施できているか確認している。
- ・ 教職課程（教育課程）を通して育む学修成果（ラーニング・アウトカム）は、各課程の「卒業認定・学位授与の方針」（資料 1-1-1）に表し、学生には「履修カルテ」（資料 1-1-5）に具体的に明示している。

〔長所・特色〕

毎年度末に開催する教育方針説明会には全教職員が参加し（非常勤講師にも参加を呼びかけ、多数の参加がある）、改めて本学の教育課程の目的・目標を共有するとともに、次年度に向けての教育活動方針を確認・共有する場となっている。

〔取組上の課題〕

学生に対して学修成果（ラーニング・アウトカム）を十分に周知することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 1-1-1：履修の手引き、2022 年、pp. 9-17
- ・ 資料 1-1-2：[Web サイト（学位授与、教育課程編成・実施の方針）](#)
- ・ 資料 1-1-3：[Web サイト（理念と目的）](#)
- ・ 資料 1-1-4：教育方針説明会資料
- ・ 資料 1-1-5：履修カルテ

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

- ・ 教職課程認定基準に適合する教員を配置し、小規模単科大学ならではの密接な研究者教員と実務家教員及び事務職員との協同体制を構築している（[資料 1-2-1](#)）。
- ・ 教員養成の充実を図り、併せて地域の教育機関との連携を推進・支援することを目的に「教職センター」（資料 1-2-2）を設置している。また、全学の教職課程の運営に責任を持つ「教職

課程委員会」(資料1-2-3)を設置し、教職課程の円滑な運営を行っている。

- ・キャンパスには小・中・大教室の他、PC 実習室及び自習室や音楽室、造形室、保育実習室、看護実習室、理科実習室、家庭科実習室、体育館、サブアリーナ、グラウンド等を設置している(資料1-2-4・6)。また、同一法人の桃山学院大学の体育施設(体育館、グラウンド、室内温水プール、武道場)を体育実技の授業で週2日利用している(資料1-2-5)。図書館の蔵書数は約12万点にのぼり、免許種毎の専門図書は約16,000冊になる(資料1-2-6)。学内は殆どの場所にWi-Fiを完備し、BYODに対応している(資料1-2-7)。
- ・教職課程(教育課程)の質的向上のために、「授業評価アンケート」([資料1-2-8](#))、教員相互の「授業見学」(資料1-2-9)を実施している。また、FD・SDの一環として、全教職員が参加する「桃山学院教育大学FD研修会」(資料1-2-10)を人間教育学会の教育フォーラムとの共催で開催し、学校現場の課題等について学ぶ機会を設けている。
- ・「桃山学院事業報告書」([資料1-2-11](#))に、教職希望者数に対する教職決定者数及び就職先(採用校・園)の名称を記載し、大学Webサイトに公開している。
- ・教員養成を主たる目的とする単科大学のため、教職課程が大学の教育課程に含まれており、毎年度に行う大学全体の自己点検評価における教育課程の自己点検評価を以って教職課程のそれとし、「大学Webサイト」(資料1-2-8)に公開している。また、2021年度には大学基準協会による認証評価を受審し適合と認定された。

〔長所・特色〕

少人数教育制によるチューターを中心とした「Team 桃教」([資料1-2-12](#))と呼称される全学的な教職指導体制を構築し、学生ひとり一人に対するきめ細やかな指導を行っている。また、各科の教科に関する専門的事項や指導法については、理論と実践を兼ね備えた実務家教員による科目を多数開講している([資料1-2-13](#))。

〔取り組み上の課題〕

特に実務家教員に対する、より一層の研究活動の奨励及びその支援体制の構築が課題となる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：[Web サイト \(教員養成について\)](#)
- ・資料1-2-2：教職センター規程
- ・資料1-2-3：教職課程委員会規程
- ・資料1-2-4：教務のしおり、2022年、p.14
- ・資料1-2-5：和泉キャンパス施設利用に関する手引き
- ・資料1-2-6：教職課程実地視察調査票(抜粋)
- ・資料1-2-7：e-learning サポートマニュアル
- ・資料1-2-8：[Web サイト \(情報公開/授業評価アンケート\)](#)
- ・資料1-2-9：授業見学について
- ・資料1-2-10：FD研修会開催要項・報告
- ・資料1-2-11：[Web サイト \(事業報告\)](#)
- ・資料1-2-12：[Web サイト \(Team 桃教\)](#)
- ・資料1-2-13：[Web サイト \(実務家教員授業科目\)](#)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

〔現状説明〕

- ・「入学者受入れの方針」（資料 1-2-8）を踏まえ、本学で学ぶにふさわしい学生の募集や選考を実施している（[資料 2-1-1](#)）。
- ・教員養成を主たる目的とする単科大学のため、殆どの学生が教職課程を履修することになり、「履修規程」（[資料 2-1-2](#)）に教職課程の履修を開始・継続するための基準（教職課程科目の受講資格）を規定している。
- ・教員養成を主たる目的とする単科大学のため、入学定員が教職課程の適切な履修学生数となる。
- ・「履修カルテ」（資料 1-1-5）を活用し、チューター及び教職センター講師による個別指導のもと、学生の適性或資質に応じた教職指導を行っている。

〔長所・特色〕

教員養成を主たる目的とする単科大学であるため、学生全員に対して教職指導を行っている。全学生対象ガイダンスでの説明や、チューターによる個別指導（[資料 2-1-3](#)）、教職センター主催の教員採用試験対策講座等（[資料 2-1-4](#)）、年間を通してのきめ細やかな指導によって、教職を担うべき適切な人材の確保・育成を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教育課程に教職課程が包含されるカリキュラムにあって、修学途中において何らかの理由で教職課程を断念せざるを得ない学生について、その後の修学へのモチベーション維持が課題となる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：[Web サイト（入試情報）](#)
- ・資料 2-1-2：[Web サイト（履修規程）](#)
- ・資料 2-1-3：[Web サイト（少人数制&教職員チーム制）](#)
- ・資料 2-1-4：[Web サイト（教職センター）](#)

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

- ・全ての課程及び学年においてキャリア形成に関する授業科目の充実を図り、社会的自立を図るために必要な能力が段階的に涵養されるよう教育課程を整備している。1・2年次の「人間教育基礎演習」及び「人間教育演習」、3年次の「キャリア演習 1・2」、4年次の「キャリア演習 3」の各科目担当者、教職センター及びキャリアラーニングセンターの専門スタッフ、チューターの三者が常に連携して、学生の教職またはその他の職種に就こうとする意欲や適性を把握している（[資料 2-2-1](#)）。
- ・1年次の「人間教育基礎演習」でキャリア・プランニングの基礎について理解を図るとともに

2年次前期のインターンシップの準備を始め、2年次の「人間教育演習1」の中で週1回のインターンシップを行う（資料2-2-2）。学校園インターンシップは幼稚園、小・中・高校及び特別支援学校等の教育領域で、学校外インターンシップは公共スポーツ施設、スポーツ団体、大学連携企業、総合型スポーツクラブ等の健康領域及び保育園、認定こども園、児童養護施設、社会福祉施設等の福祉領域で実施している（資料2-2-3）。3年次前期の「キャリア演習1」、3年次後期の「キャリア演習2」、4年次前期の「キャリア演習3」では、幼稚園教諭・保育士、小学校等教員、養護教諭、一般企業の進路別にクラスを編成し、学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている（資料2-2-4）。

- ・教職センターでは、基礎学力確認テスト、各自治体の教育内容や採用試験の傾向と対策に関する情報提供、採用試験に関する説明会や対策講座・セミナー・自主勉強会、参考書や過去問題集の貸し出し等を行っている（[資料2-1-4](#)）。
- ・教員免許状取得数及び教員就職率を高めるため、教職センターに小・中・高校の元教員を教職センター講師として4名配置し（[資料2-1-4](#)）、日常的に個人面接や集団面接、集団討論、場面指導や模擬授業等の個別指導を行っている。また、教員採用試験対策として夏季及び春季休暇中の「桃教セミナー」（資料2-2-5）の実施や、3・4年次生を対象に、自治体の教育委員会による説明会や、学校現場での教職ボランティアの紹介を行っている。
- ・キャリア支援を充実させる観点から、各自治体や教育委員会等と連携協力を締結している（[資料2-2-6](#)）。

〔長所・特色〕

正課授業での試験対策（実践的な試験対策）、教職センターによるプログラム（教員採用試験合格をめざす対策講座やセミナー）、正課外での専任教員によるサポート（弱点補強や能力向上をめざす個別対応）の三位一体によるきめ細やかな教職指導を行い、全教職員が一丸となって「Team桃教」で人間力・指導力・チーム力を兼ね備えたプロの教師の育成をめざしたキャリア支援を行っている。

〔取り組み上の課題〕

チューター制に基づく少人数教育によるきめ細やかな教職指導が達成できている半面で、教員へ過度な負担がかからないような効率的な制度作りが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：[Web サイト（キャリア形成支援）](#)
- ・資料2-2-2：「人間教育基礎演習1・2」「人間教育演習1」シラバス
- ・資料2-2-3：インターンシップハンドブック、2022年、p.4
- ・資料2-2-4：「キャリア演習1・2・3」シラバス
- ・資料2-2-5：桃教セミナー案内
- ・資料2-2-6：[Web サイト（協定一覧）](#)

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

- ・本学の教育理念の根幹に係る全課程共通の学びを具現化する「桃教コア科目」を中心に、「教職コア科目」及び「その他の教職科目」からなる多重構造のコアカリキュラムを構築している（資料 3-1-1）。
- ・身につけるべき力やスキルを5分類し（①人間を理解する ②ベーシックスキルを獲得する ③現場体験を実習を通じて学ぶ ④進路に応じた専門性を獲得する ⑤コミュニケーション力や協働の技法を身に付ける）、各科目との関連性をカリキュラム・マップで可視化している（資料 1-1-1、pp.46-47）。また、教職課程コアカリキュラムに対応するカリキュラムを編成し、課程認定時のシラバスが遵守されているか、教務委員会が点検を行っている（資料 3-1-2）。
- ・義務教育9年間を見通した教科担任制に鑑み、小学校教育課程では中高免許（国・英）を、健康・スポーツ教育課程では小学校免許の取得を可能としている。また、多様な専門性を有する教師の養成を目指し、「4つのプログラム」（[資料 3-1-3](#)）を設置している。
- ・1年次に ICT 活用能力の基礎を学ぶ「情報リテラシー1・2」、2年次に ICT を活用した指導能力等を学び、各教科教育法、実習指導等でより深めることができるように「教育方法の理論と実践」、3年次に「データサイエンスの基礎」を配置し、今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応を可能となるように指導している（資料 3-1-3）。
- ・シラバスにアクティブラーニングの視点から取り組む内容を明記し、課題発見や課題解決等の力量を育成している（資料 3-1-5）。
- ・シラバスに到達目標・授業概要・授業計画・授業方法・評価方法を明記し、学修内容及び評価方法等を学生に明確に示している（資料 3-1-5）。
- ・教育実習を実りあるものとするよう、「履修規程」（資料 2-1-3）に参加要件を規定し、「教育実習ハンドブック」（資料 3-1-6）には教育実習の目的・心構え・流れ等について記載し、ガイダンス等でも説明している。
- ・1年次から履修カルテ（資料 1-1-5）を作成し、学修状況に応じたきめ細やかな教職指導を行っている。「教職実践演習」（資料 3-1-7）ではその蓄積を活かして自身の現状分析を行い、教員に求められる資質能力や実践力を確実に身につけるための教師力の向上を図っている。

〔長所・特色〕

激変する教育現場で複雑な課題に対応するための「プラスα」の力を備えた教員を育成するため、3つの主専攻（3課程）と4つの副専攻（4つのプログラム）を組み合わせた独自の教職課程（教育課程）カリキュラムを編成・実施している。

〔取り組み上の課題〕

教職課程コアカリキュラムに対応したシラバスを確実に踏襲しているか、その点検の強化が課題となる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1 : 教職課程ガイドブック、2022 年、pp.18-21
- ・資料 3-1-2 : 教務委員会議事録
- ・資料 3-1-3 : [Web サイト \(4つのプログラム\)](#)
- ・資料 3-1-4 : 「情報リテラシー 1・2」「教育方法の理論と実践」シラバス
- ・資料 3-1-5 : シラバス作成の手引き
- ・資料 3-1-6 : 教育実習ハンドブック、2022 年
- ・資料 3-1-7 : 「教職実践演習」シラバス

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

- ・学校見学やインターンシップ、介護等体験、教育実習等を配置し、取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を養成する機会を設定している（資料 2-1-3、p.50）。
- ・2 年次生全員が参加するインターンシップの終了後には、「人間教育演習 1」の中でのクラス別実践報告会及び振り返りと、全クラス合同の実践報告会を行っている（資料 2-2-2）。教育実習の終了後には、「教育実習報告会・シンポジウム」（[資料 3-2-1](#)）を開催して、教育実習の意義や課題について協議し、それを共有化することで自己の課題に気づき、今後の学びや進路決定に繋げている。
- ・地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新事情について理解する機会として、学校インターンシップ以外にも、学校ボランティアや小・中学校との交流会等への参加を促している（資料 2-1-3、p.34）。
- ・本学の位置する堺市教育委員会をはじめとする 11 の教育委員会や、自治体、高校、団体と連携協定を締結している（資料 2-2-6）。
- ・教育実習期間中にチューターが実習校を訪問し、可能な限り研究授業を参観して事後指導を行い、教職センターも常に実習校と情報を共有し、教育実習の充実を図っている（資料 3-2-2）。

〔長所・特色〕

地域との連携協定を締結し、年間を通して様々なプログラムで学生を学校・園に派遣し、実践的指導力の養成を行っている。また、本学教員の近隣自治体の教育委員への就任や講師派遣依頼も多数受託し、各自治体の教育行政と深い連携関係を構築している。

〔取り組み上の課題〕

2021 年度からの定員増に伴い、インターンシップや介護等体験、教育実習等の受入れを依頼する学校・園等の新規開拓及び継続的な協力関係の維持が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 : [Web サイト \(教育実習報告会\)](#)
- ・資料 3-2-2 : 実習巡回訪問票

Ⅲ 総合評価

本学は2018年の開学以来、教員養成系単科大学ならではの少人数教育制によるチューターを中心とした「Team 桃教」と呼称される全学的な教職指導体制を構築し、「誰一人取り残すことのない教育」の実践を掲げ、学生ひとり一人に対してきめ細やかな教職指導を行い、人間力・指導力・チーム力を兼ね備えたプロの教師の育成を行っている。

また、教育理念である人間教育を土台に、激変する教育現場で複雑な課題に対応するための「プラスα」の力を備えた教員を育成する3つの主専攻（3課程）と4つの副専攻（4つのプログラム）を組み合わせた独自の学びを構築し、実践的指導力の養成を目的として地域社会とも多方面に亘る密接な連携を築き、「正課授業」「教職センターによるプログラム」「正課外での専任教員によるサポート」の三位一体による、学生の成長を最優先にした、学修者中心主義に基づく教育を行っている。

なお、本学は本年度に、文部科学省による教職課程認定大学等の実地視察の対象校となり、2022年12月8日（木）にオンライン形式による視察が行われた。視察事項は、①教育課程及びその履修方法、②教員組織、③施設・設備（図書等を含む。）について、④教育実習の実施状況、⑤学生の教員免許取得状況・教員への就職状況、⑥ICT活用指導力充実に向けた取組状況等の6項目で、視察後の文部科学省のよる講評は「教員養成に関する教育課程、教員組織等については、一部は正すべき点があるものの全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。」という内容であった。

以上のことから、本学は、教育理念である人間教育に基づく独自の教職課程（教育課程）とその運営体制を構築し、それが教職課程実地視察の講評にもあるとおり、教職課程設置基準を満たし、良好に実施されていると評価できる。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程の自己点検評価が包含される大学全体の自己点検評価に基づいて点検評価を行った。そして、その自己点検評価をもとに、教務事務及び教職センターの事務局である教務グループの教務担当課長及び教職課程担当職員とで、教職課程自己点検評価報告書（案）を作成し、それを教職センター運営会議（教職センター長及び副センター長、教務担当課長、教職センター講師、教職センター職員を構成員とする連絡会議）で内容の確認・共有を行った。その後、教務委員長及び教職センター長の確認を経て、教務委員会及び教職課程委員会で内容の確認・共有を行い、最終的には、大学執行部会議（学長、副学長、学部長、学部長補佐、教育監、各課程長、教務部長、学生部長、キャリアラーニングセンター長、教職センター長、入試広報委員長、事務部長学長を構成員とする、学長が全学的な意見を集約し、学長の意思決定を円滑化するために設置された会議体で、審議事項には「内部質保証に関する事項」が含まれる。）での承認を経て作成した。

V 現況基礎データ一覧

令和4（2022）年5月1日現在

法人名	桃山学院				
大学・学部名	桃山学院教育大学・人間教育学部				
学科・コース名	人間教育学科				
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数	164 人				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	154 人				
③ ①のうち、教員免許状取得者数の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	159 人				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用 + 臨時的任用の合計数)	71 人				
④のうち、正規採用者数	34 人				
④のうち、臨時的任用者数	37 人				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(客員教授)
教員数	22 人	15 人	4 人	2 人	7 人
相談員・支援員などの専門職員数： 教職センター講師：4人、キャリアラーニングセンター講師：1人、キャリアラーニングセンター相談員：3人、学生支援センターカウンセラー：2名、フィットネスセンターインストラクター：1名					